

第24回防災まちづくり大賞受賞団体の決定

総務省消防庁国民保護・防災部地域防災室

令和2年2月28日（金）、ホテルルポール 麹町（東京都千代田区）において、第24回防災まちづくり大賞表彰式を開催しました。

なお、新型コロナウイルス感染症対策の基本方針（令和2年2月25日）の趣旨を踏まえ、規模を縮小して開催しました。

「防災まちづくり大賞」は、阪神・淡路大震災を契機に平成8年度に創設され、今回で24回目を迎えました。地域に根ざした団体・組織等、多様な主体における防災に関する優れた取組や、防災・減災、住宅防火に関する幅広い視点からの効果的な取組等を表彰し、広く全国に紹介することにより、地域における災害に強い安全なまちづくりの一層の推進

に資することを目的として実施しています。

今回は全国各地から104事例の応募があり、学識経験者等で構成される選定委員会において、他の地域の模範となる優れた取組19事例が選定されました。

受賞事例数一覧

表彰区分	総務大臣賞	3
	消防庁長官賞	5
	日本防火・防災協会会長賞	11
（参考）応募総数		104

災害による被害を軽減するためには、地域の防災力を強化すること、とりわけ地域の方々の「自分たちの地域は自分たちで守る」という強い意識と連帯感に支えられた自主的な防災活動を推進していただくことが重要です。

平成25年12月に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立し、住民、自主防災組織、消防団、地方公共団体、国等の多様な主体が、相互に連携協力して、地域防災力を高めていくことの重要性が示されました。

受賞団体の皆様には、今回の受賞を契機と



主催者挨拶をする林崎長官



表彰状授与の様子



総務大臣賞（3団体）との記念撮影の様子

して、より一層日頃からの活動を充実・発展させ、引き続き、地域防災力の向上にご尽力いただくことを期待しています。

〈総務大臣賞受賞事例の紹介〉

今回、総務大臣賞を受賞された3事例の取組を紹介します。

- 団体名：鶴見区市場西中町
まちづくり協議会
- 事例名：市場西中町の歴史と
地域のつながりを生かした
防災まちづくり
- 所在地：神奈川県横浜市

【団体概要】

平成15年11月に勉強会を始め、平成16年11月にまちづくり協議会を設立、平成18年1月に横浜市から地域まちづくり組織として認定を受けた。また、平成20年1月に「防災まちづくり計画」が市の認定を受け、専門家や行政などと協働で活動を進めてきた。平成28年7月に計画を大幅に見直し、現在は新しい「防災まちづくり計画」を基に活動を行っている。毎月1回の定例会議又は幹事会を開催し、防災マップや防災備蓄品の検討などに取り組むとともに、広報活動として、「まちづくりニュース」と「かわら版」を毎年、各3回発行するほか、「まちづくり川柳」の募集などを行っている。

【背景】

市場西中町地区は、旧東海道に沿って発展してきた下町のにぎわい、人間関係の良さが魅力のまちである。一方で、当地区内には狭い道路や屈折した路地、行き止まりの路地などが多いほか、現在の耐震基準を満たしていない木造住宅も多く残るなど、防災上の課題があった。また、約60年前に床上浸水の被害を受けた経験から、災害に強い町にしたいと考える住民が多くいた。平成15年に「防災上課題のある密集市街地」として、横浜市から選定されたことをきっかけに防災まちづくりの取組を始め、「安心・安全・美しい町 ずっとここに住みたいと思うまち」の

実現に向けて活動している。

【取組の内容】

耐震診断の促進や空き家の対応についてまとめた「いえづくりのルール」、道路の拡幅や歩道の整備についてまとめた「みちづくりのルール」、広場や小さな公園の整備についてまとめた「まちづくりのルール」の、3つのルールを定めた「防災まちづくり計画」を作成し、地域全体で防災まちづくりを進めている。この計画を基に、専門家の助言を受けながら、公園整備などについて行政や地権者といった関係者との調整を行うとともに、避難経路を特定するための通りの名称募集や行き止まり解消のための住民との交渉なども行っている。

【成果】

防災設備を備えた2箇所の公園の整備や道路拡幅、「通り名看板」や「避難扉」の設置など、「防災まちづくり計画」を基にハード整備を行い、密集市街地の持つ課題の改善に寄与している。また、ハード整備や広報活動を通して、地域の防災に対する意識も向上し、新たなハード整備や子ども会、消防団と連携した防災イベントの実施にも繋がっている。さらに、防災以外の「まちづくり」への機運も高まっており、地域課題の解決に取り組むことで、住民の地域に対する愛着の醸成に繋がっている。

- 団体名：広瀬館少年少女消防隊
- 事例名：広瀬館少年少女消防隊の
継続的な防火活動「火の用心」
まわり94年の伝統
- 所在地：富山県南砺市

【団体概要】

広瀬館少年少女消防隊は、福光南部小学校下の小坂、館、祖谷の児童で構成されるクラブである。地区住民の防火意識高揚のために、地区の児童が受け継いできた伝統の活動である火の用心の巡回に励んでいる。

【背景】

広瀬館地区では大正10年から児童が地区

住民の防火意識向上を図るため地区を巡回して防火を呼び掛けている。地区内における大規模火災の発生を契機として、児童による消防隊発足の機運が高まり、広瀬館少年少女消防隊の前身である「広瀬館少年消防隊」が大正15年11月20日をもって正式に結成された。近年の少子化の影響で隊員数は減少傾向にあるが、統合・再編成等を経て、100年近く伝統を受け継ぎ活動を継続している。

【取組の内容】

隊員は毎月第2、第4土曜日の朝、広瀬館の消防屯所に集まり地区内を巡回する。赤字に白で「火の用心」と染め抜かれた旗を先頭に「拍子木」や「振り鈴」を鳴らして、「火の用心」の歌をうたいながら防火を呼び掛けている。隊員は地区内の小学1年生から6年生であり、入学時から6年間継続して防火活動に励む。特に巡回活動は、90年以上という長い年月の間、親から子へ、子から孫へと受け継がれてきた。さらに近年、一人暮らしの高齢者住宅に「火の用心」と刷られたピラを配布し、安否確認等、防火活動以外の見守り活動を行っている。

【成果】

「地区の防火思想の高揚を図り、クラブ員の防火意識を高める」クラブの目的は、大正15年の結成当時から変わらず、火の用心回りの形態は、90年を経た今でもほとんど変わっていない。

この継続した呼び掛け活動により、地区内住民の防火思想の高揚が促された結果、平成14年以降の福光地域全体の火災件数が87件であるところ、巡回を行っている広瀬館地区における火災件数は、わずか5件に抑えられている（令和元年9月現在）。

また、巡回活動の経験を通じて、児童自身の防火意識の向上や学年を超えた隊員間及び世代を超えた地域住民間の交流が生まれている。特に、一人暮らしの高齢者宅を定期的に訪問し、体の調子に異変がないかを確認するなど、地区の安全・安心に寄与している。

■団体名：三善自治会

■事例名：災害・避難カード作成と自助を促す共助の取組

■所在地：愛媛県大洲市

【団体概要】

防災活動として、総会の開催と年1回以上の災害対応訓練等の実施や防災資機材等の整備を行っている。地域の自主防災組織と組織を同じくしており、自治会の活動として、地方祭や敬老会、清掃活動等各種諸行事を実施するなど、地域としての結束が強い。

【背景】

三善地区は、1級河川肱川と矢落川の合流地点の下流域に位置し、地区の中心に肱川が流れている。過去に何度も肱川の氾濫や内水被害により、家屋や農地などに浸水被害が発生しており、山間部には、土砂災害（特別）警戒区域の指定を受けた箇所が複数ある。また、近年、南海トラフ地震の発生の可能性も高まっており、当該地域は、最大震度7の地震が発生すると予測されている。

それらの災害に対し、人的、物的被害の発生及び拡大の防止を目的として、平成27年8月に地区防災計画を策定し、地域の体制を整え、防災事業を実施していく中で、地域防災力向上のために、内閣府が募集した「災害・避難カード」のモデル事業に応募し、事業を実施した。

【取組の内容】

平成28年度に、内閣府が募集した「災害・避難カード事業」を活用し、モデル地区として同事業を実施した。3回のワークショップの中で、避難場所や避難所、2次避難先などの話し合いを行いながら災害・避難カードを作成するとともに、作成した同カードを基に、避難訓練を行った。モデル事業で作成した「災害・避難カード」を地域全体に根付かせるため、平成29年度に自治会及び自主防災組織役員が地域内の全区でワークショップを開催し、その説明を行うとともに、活用を促すなど、自助を促す共助の取り組みを行った。

【成果】

平成 30 年 7 月豪雨災害による災害発生当日、自主防災組織役員が公民館へ集まり、地域内の災害対策本部を開設し、まず、雨やダム
の状況などの情報収集にあたり、収集した情報に基づき、地域の有線放送などを用い、避難を呼びかけるなどの支援活動を行った。次に、避難所となっている公民館が、大規模な洪水時には浸水する恐れがあるため、あらかじめ、二次避難先や、どのタイミングで二次避難を行うかを検討し、自主防災組織主体

で高台にある変電所施設への二次避難を実施した。

事前に作成した「災害・避難カード（リーフレット版）」には、避難行動時要支援者を記載するようになっており、その情報に基づいて要支援者に声掛けを行い、避難支援を行った。三善地区では約 80 世帯が浸水の被害を受けたが、一人の犠牲者も出すことなく、スムーズな避難が出来た。

第24回防災まちづくり大賞 受賞団体一覧

【総務大臣賞】（3団体）

受賞団体	受賞事例
鶴見区市場西中町（つるみくいちばにしなちょう）まちづくり協議会（神奈川県横浜市）	市場西中町の歴史と地域のつながりを生かした防災まちづくり
広瀬館（ひろせたち）少年少女消防隊（富山県南砺市）	少年少女が取り組む継続的防火活動「火の用心」まわり 94 年の伝統
三善（みやし）自治会（愛媛県大洲市）	災害・避難カード作成と自助を促す共助の取組

【消防庁長官賞】（5団体）

受賞団体	受賞事例
自主防災組織 ハンマーズ（東京都墨田区）	楽しみながら学ぶ、災害に強いまちづくりを目指して
足立区第 18 地区町会自治会連絡協議会（東京都足立区）	地域の危険性を見据えた水害対策への取り組み
三重県立南伊勢（みなみいせ）高等学校 南勢校舎（なんせいこうしゃ）（三重県南伊勢町）	地域の防災リーダーの育成を図る
桃園学区（とうえんがっこう）自主防災会（京都府京都市）	全世代対象の防災ひとづくり ～一人一人が「自分のこと」として災害と向き合うために～
広川町（ひろがわちょう）（和歌山県広川町）	津浪祭の継承

【日本防火・防災協会会長賞】（11団体）

受賞団体	受賞事例
鹿島台（かしまだい）まちづくり協議会 安全で快適委員会（宮城県大崎市）	わらじ村長が築いた鹿島台「安全で快適な地域社会をめざして」
城北（じょうほく）旅館組合（東京都台東区）	簡易宿泊所と地域住民が一丸となった防災行動で防災力向上
佐江戸・加賀原（さえど・かがはら）支えあい連絡会（神奈川県横浜市）	支えあい！これこそ安全安心の原点！～地域の垣根を越えた防災活動～
横浜市役所（神奈川県横浜市）	『防火戸ピクトグラム』で人命を守る！
大和市（やまとし）少年消防団（神奈川県大和市）	市内の小・中学生を対象に、災害時に地域で活動できる人材育成と社会づくりへの貢献
四日市市（よっかいちし）自治会連合会（三重県四日市市）	地域から提案されたみんなに優しい避難所づくり
先斗町（ぼんとちょう）まちづくり協議会（京都府京都市）	京都花街の挑戦、いざ「先斗町このまち守り隊」発足 ～きっかけは火災の発生、まちづくり協議会が消防と警察を強力にけん引～
徳島市津田（つだ）中学校 防災学習倶楽部（徳島県徳島市）	絆を深め、地域と共に歩む防災教育
徳島県立阿南光（あなんひかり）高等学校 あこうバンブーミクス（徳島県阿南市）	地域の防災力向上のためのオリジナル防災用品の普及活動
枝光第一区（えだみつだいいちく）市民防災会（福岡県北九州市）	「まち歩き」でまちづくり 地域・大学・行政が連携して安全で安心して暮らせるまちをつくる
横校校区（よこしろこうく）市民防災会（福岡県北九州市）	地域と大学・地元企業・NPO等が連携した持続的な防災まちづくりの取り組み「よこしろ防災チャレンジ」